

教科・領域教育専攻

社会系コース

小川 雄大

指導教員 井上 奈穂

## 1 本研究の目的と問題意識

OECDやPISA調査などでも、基本的な知識や技能、思考力、判断力、表現力の重視が求められている結果となっており、日々急速に変化していくこの21世紀を生き抜く子どもを育てるためにも、正しい知識や豊かな思考力を育成することが重要課題になっているといえる。しかし、正しい知識や豊かな思考力を育むことは非常に難しい教育課題の一つといえる。我々は社会科を教える際、子どもに分かりやすいように簡略化した知識や概念を教えることが多いが、それが果たして正しい知識といえるのか。また、豊かな思考力とは、具体的にどの発達段階でどのような社会認識力を形成するのが好ましいのか。これらの疑問を解決しなければ、どのような授業や段階を目指せばいいのかわからない。

社会科の課題は、とりもなおさず現代社会における社会的なものの見方や考え方を養うことだろう。これまでの社会科は、複雑な概念や立場を簡略化して社会科を学ばせてきた。しかしこれでは、現実社会の社会的なものの見方や考え方が養われているとは考えにくい。

本研究では、視点取得という立場から、学習指導要領や教科書の分析を行う。また、正しく現代社会のものの見方を養うと同時に、子どもの発達段階に即した社会認識力を形成する授業を開発する。

## 2 小学校における視点取得に関する位置付け

加藤寿朗氏は、自らが行ったアンケート調査などの実証的データをもとに、児童の社会の分かり方を「視点取得」という考えを用いて明らかにしている。加藤氏によると、児童の社会認識の発達的変容は、ある一定の傾向がみられる。加藤氏は、その傾向を実証的データを用いて分析し、統計を取って社会認識構造のモデル図を開発した。それによると、社会認識の段階は①並列・事例型、②関連型、③組み込み型、④変革・創造型⑤総合型の5つのモデルがあることが分かった。社会認識構造のモデル図は、児童の社会の分かり方の統計ともいえるので、授業開発はこのモデル図をもとに開発していくこととした。

## 3 先行研究の分析

小学校社会科における概念形成学習はどのようになっているのか。視点取得の観点から、第五学年を対象とした3つの授業を先行研究として分析していく。分析の結果、本来第五学年では⑤総合型までの授業が行えるにもかかわらず、そのほとんどの授業が各学年の社会認識構造の段階に到達していないことや、①並列・事例型から⑤総合型までの段階を追って視点取得が行えていないことが分かった。そのため仮説として、

①視点取得を用いて授業を開発する際には、単にその発達段階のものを行うだけでなく、段階を追って社会認識構造のモデルを深化させていく必要がある。

②社会認識構造のモデルは、段階を経るごとに現実の社会の物の見方に近づいていくので、その学年に対応する中で、できるだけ高次の社会認識構造のモデルを活用することが、より実際の社会のものの見方に即した概念を形成することにつながる。

という2点を立てた。

#### 4 小学校社会科にみられる視点取得の必要性

視点取得に基づいて、学習指導要領及び教科書を分析していく。その結果、学習指導要領ではそのほとんどが②関連型までで留まってしまっているのに対し、教科書では⑤総合型の単元があることが分かった。教科書は、「農業」→「水産業」→「工業」→「情報産業」→「環境」を順番に学ぶ学習手順となっており、そのうちの環境学習が第五学年の総括単元として⑤総合型に位置づいていたのである。このことから、自身の開発する授業は、「農業生産」「水産業生産」「工業生産」のそれぞれの単元で④変革・創造型の授業までを開発し、三種類の変革・創造した概念を関連付けて、総括単元で⑤総合型の授業を開発していくこととした。

#### 5 第5学年総括単元「徳島の特産品グランプリ！」に関わる視点取得のための授業の理論

この章では、実際に第5学年で授業を開発する場合、具体的にどのような視点を発見・関連づけさせていけばよいのかを考察する。授業開

発では、「商品」を核にして、「生産」、「消費」、「運輸」「社会」という4つの視点を関連付けた④変革・創造型までの授業を、徳島の主な産業である「しいたけ」「わかめ」「LED」を事例に開発し、その後それらを総括する形で、⑤創造型の授業を開発した。

#### 6 小学校社会科における視点取得を目指す社会科単元の開発—第五学年総括単元「徳島の特産品グランプリ！」の場合—

総括単元では、⑤総合型の社会認識構造に合致した授業を開発していくことが求められる。総合型の授業を開発する際に必要なのは、それぞれの産業を総合的にとらえることである。そのため、徳島の特産品グランプリと題して最終的にはそれぞれの商品や企業の強みや弱みを総合的に考えて、自分なりの特産品を決定していくことを、総括単元のまとめとした。

#### 7 本研究の成果と課題

本研究の成果としては、次の二点が挙げられる。まず1つは、実際の学習指導要領及び教科書が、加藤氏の作成した社会認識構造のモデルに適合しているかを分析し、明らかにした点である。学習指導要領が②関連型で留まってしまっている点、また教科書が総括単元を用いて⑤総合型の単元となっている点などが挙げられる。またもう一つは、①並列・事例型から⑤総合型までを系統立てて学ぶことができていないという教科書の課題を解決した授業を作成することができたという点である。

課題としては、徳島の児童を想定したものとなっているため、汎用性が薄いことが挙げられる。今後様々な形で違った授業を開発していきたい。